

2019年後期 DP 到達度調査・卒業生・企業調査の結果(概要)

1. 概要(経年変化ではなく、異学年比較) ※1.05倍以上を緑、0.95倍以下を朱に。

<アンケート項目 すべて4件法で回答>

①目標設定 ②挨拶 ③清掃 ④頭髪 ⑤協働性 ⑥能動的学修 ⑦プレゼンテーション ⑧ICT活用力
⑨異文化理解 ⑩1日の学修時間 ⑪これまでの人生での学修 ⑫施設満足度 ⑬生活満足度 ⑭要望

	N	目標	挨拶	清掃	頭髪	協働	文章	能動	プレゼン	ICT	異文化	時間①	時間②	施設	生活
2019_1	647	3.07	3.02	3.04	3.62	3.25	3.03	3.09	2.85	2.75	3.14	1.95	2.38	2.45	2.83
2018_1	529	3.17	3.24	3.19	3.79	3.30	3.11	3.12	2.77	2.67	3.05	1.63	2.28	2.39	3.07
倍率	1.22	0.97	0.93	0.95	0.96	0.98	0.97	0.99	1.03	1.03	1.03	1.20	1.05	1.02	0.92
2019_2	531	3.00	2.99	2.99	3.64	3.22	2.97	3.06	2.85	2.65	3.17	1.97	2.47	2.19	2.72
2018_2	520	3.19	3.28	3.18	3.64	3.33	3.09	3.13	2.73	2.61	3.10	1.73	2.26	2.19	2.84
倍率	1.02	0.94	0.91	0.94	1.00	0.97	0.96	0.98	1.04	1.01	1.02	1.14	1.09	1.00	0.96
2019_3	444	3.28	2.99	2.98	3.62	3.32	3.08	3.18	2.82	2.65	3.19	2.69	2.91	2.27	2.80
2018_3	444	3.33	3.24	3.08	3.71	3.37	3.16	3.20	2.60	2.54	2.89	2.46	2.89	2.40	3.03
倍率	1.00	0.98	0.92	0.96	0.98	0.98	0.98	1.00	1.08	1.05	1.11	1.09	1.01	0.94	0.92
2019_BC	381	2.98	2.98	3.01	3.58	3.13	2.98	2.99	2.88	2.72	3.19	2.51	2.64	2.38	2.73
2018_BC	313	3.11	3.32	3.20	3.59	3.23	2.97	3.03	2.86	2.79	3.19	2.25	2.63	2.45	2.92
倍率	1.22	0.96	0.90	0.94	1.00	0.97	1.00	0.99	1.01	0.98	1.00	1.12	1.00	0.97	0.94
2019_FC	145	3.18	2.94	2.99	3.79	3.25	3.04	3.06	2.79	2.55	3.08	1.65	2.39	2.28	2.81
2018_FC	142	3.08	3.06	3.01	3.58	3.17	3.18	3.04	2.46	2.30	2.94	1.54	2.27	2.23	3.04
倍率	1.02	1.03	0.96	0.99	1.06	1.03	0.96	1.01	1.13	1.11	1.05	1.07	1.05	1.03	0.92
2019_FE	307	3.18	3.01	2.94	3.64	3.35	3.12	3.22	2.97	2.78	3.22	2.25	2.48	2.27	2.79
2018_FE	295	3.32	3.25	3.02	3.76	3.48	3.22	3.25	2.73	2.61	3.17	2.05	2.60	2.14	2.95
倍率	1.04	0.96	0.93	0.98	0.97	0.96	0.97	0.99	1.09	1.07	1.02	1.10	0.96	1.06	0.95
2019_PH	150	3.02	2.81	2.77	3.55	3.19	2.88	3.04	2.57	2.55	2.97	2.17	3.37	2.20	2.73
2018_PH	155	3.20	3.09	3.08	3.75	3.35	3.17	3.14	2.65	2.58	2.81	2.26	3.38	2.38	2.97
倍率	0.97	0.94	0.91	0.90	0.95	0.95	0.91	0.97	0.97	0.99	1.06	0.96	1.00	0.92	0.92
2019_PP	639	3.14	3.07	3.09	3.63	3.31	3.03	3.15	2.82	2.69	3.17	2.01	2.37	2.33	2.82
2018_PP	586	3.28	3.31	3.26	3.78	3.34	3.11	3.18	2.69	2.60	2.93	1.66	2.09	2.36	3.01
倍率	1.09	0.96	0.93	0.95	0.96	0.99	0.97	0.99	1.05	1.04	1.08	1.21	1.13	0.99	0.94

(1)改善が図られた点

回答者数、プレゼンテーション、ICT活用力、異文化理解、学修時間

※「3年中心」だが、学科の特色に応じた教育改善の成果が出つつある。とりわけ、学修時間の伸びについては、1年間にわたる学科FD会議、初年次におけるPC必携化、アカデミックスキルの開発の影響と考えられる。

(2)改善を図るべき点

学内ルール、施設満足度、生活満足度

※高止まりとは言え、本学の特色(挨拶・頭髪・清掃)への意識が弱まりつつある。特に、「中だるみ」の2年次への対応が課題である。施設・生活満足度については、2019年度にオープンした新校舎(ディスカバリー、インスパイア、ユニビレッジ)の効果測定が必要である。

2. 要望コメント発信率 ※20%以上(5人に1人の割合)を網掛け

	BC	FC	FE	PH	PP	Total
1	18.6%	11.9%	11.2%	10.9%	15.2%	14.5%
2	20.3%	29.8%	24.3%	18.2%	22.1%	22.4%
3	12.2%	16.1%	26.8%	14.3%	19.9%	18.9%
Total	17.6%	18.6%	20.5%	14.0%	18.6%	18.3%

発信数/回答数

<傾向>

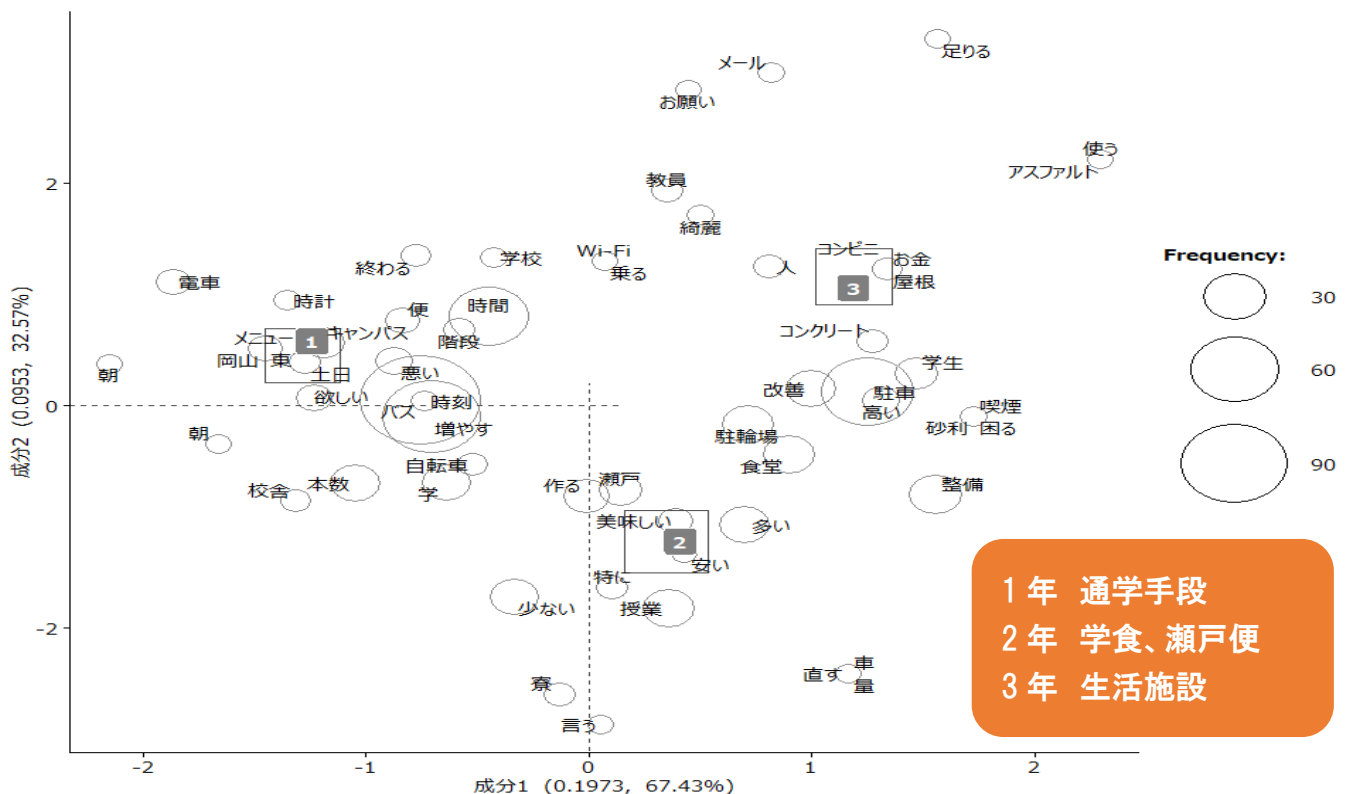
1年生は比較的要望が少なく、2年生で一挙に増え、3年生で減る傾向にある。今後、2年生との対話、および、教員免許取得に関係する学科(FE)からのヒアリングが必要である。

<高頻度語と使用例>

- ①バス(115) バスの便数、バスの時間帯 ②増やす(85) バスの本数、食堂のメニュー
 ③駐車(66) 駐車場の整備、料金、スペース ④時間(50) バスの時間、電車の時間との接続
 ⑤整備(22) 駐車場、駐輪場 ⑥授業(21) 免許取得のための時間割、面白い授業
 ⑦食堂(20) 食堂のメニュー、食事の量 ⑧駐輪場(20) 駅ごとのスペース、駐輪場の屋根

※さらに改善を進めるとともに、この数年改善してきた点、また、物理的な要因で改善が困難な点については、学生に理解を促す努力が必要である。

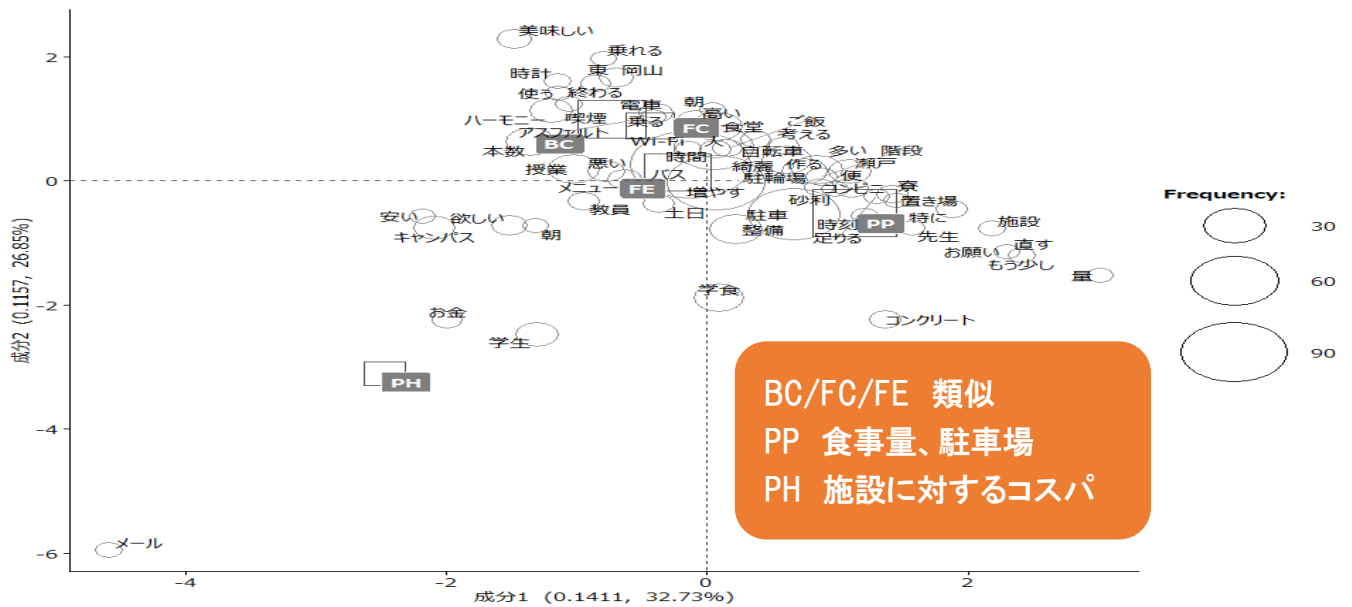
<学年別対応分析>



<学年別考察>

- ・1年生は、学修への入り口として、最寄り駅からのバス通学への意識が高くなっている。
- ・2年生の意識は、通学の利便性から生活環境、特に、寮や学食へと向けられている。
- ・3年生については、自動車通学の割合の増加に伴い、駐車スペースや料金設定に関心が向けられている。
- ・関心の対象は異なるが、「通学ストレスの緩和」と「生活環境の整備」について改善を図ることが重要である。

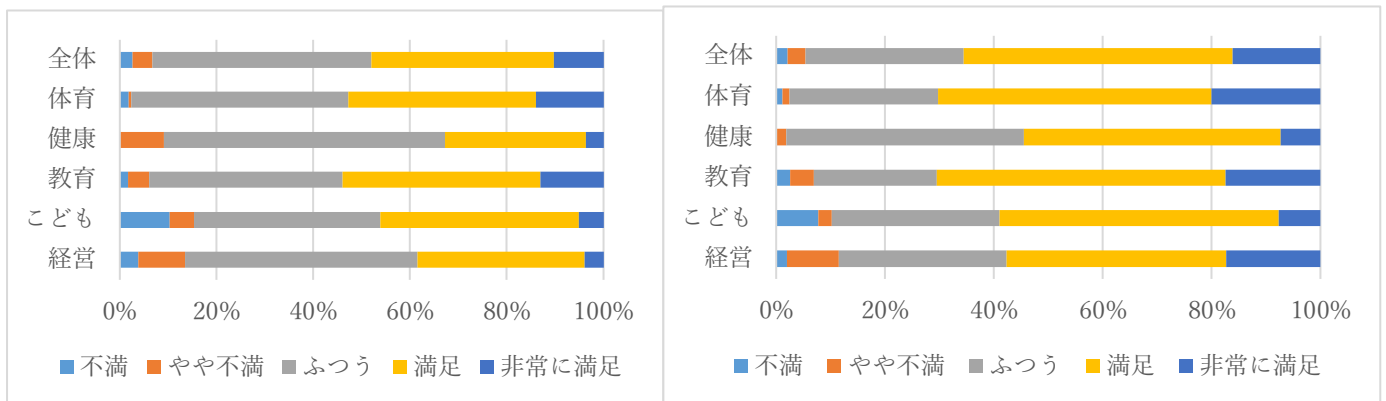
<学科別>



<学科別考察>

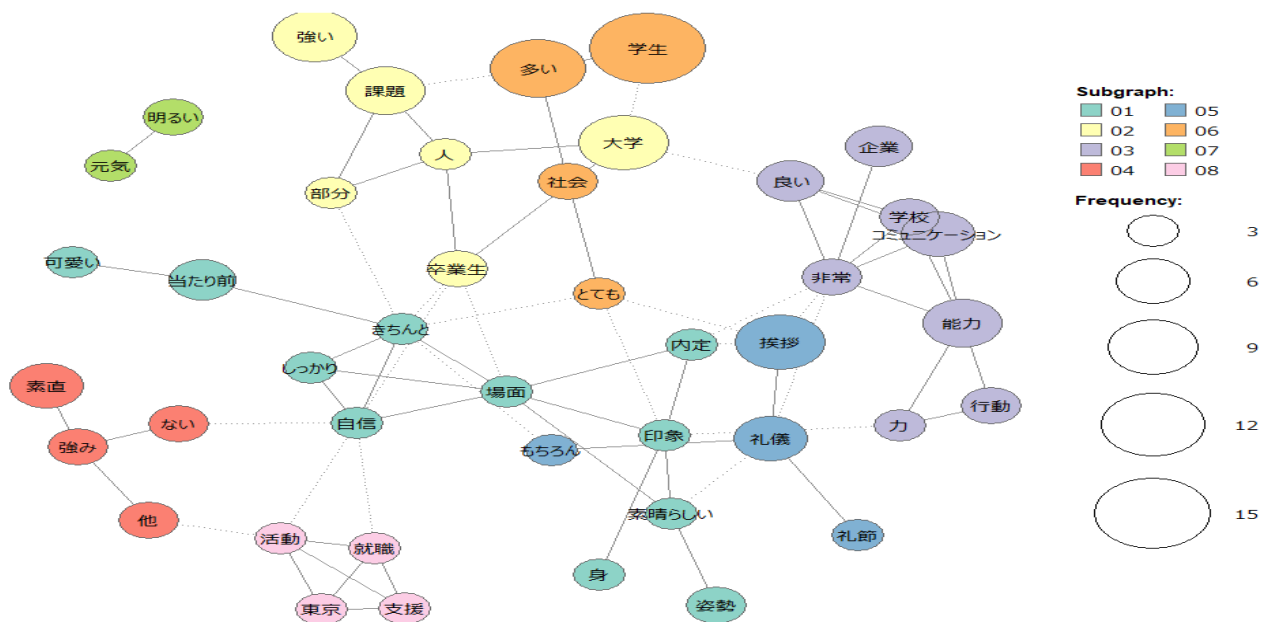
- ・原点付近(現代経営、こども発達、教育経営)の傾向が類似している。
- ・体育学科の特徴語(施設、メニューの量、コンクリート等)より、アスリート環境の点検・維持・管理が必要である。
- ・健康科学科の特徴語(お金、学生、メール)には、学費、生活費、情報過多(自学科に関係のないもの)への不満が示されている。また、体育学科と健康科学科の中央に「学食」が位置付けられており、アスリートの「食」のニーズに応じたメニュー開発が必要である。

3. 卒業生調査(左:カリキュラム満足、右:生活満足) ※回答率:85%



- ・卒業式に換わる短時間の式典でアンケート依頼を行ったため、回答率は低かった(75%)。
- ・どの学科も「生活満足度>カリキュラム満足度」となった。
- ・カリキュラムに関しては、開学当初から存続している学科(体育、教育、こども)の満足度が安定しているのに対して、比較的歴史の浅い学科(現代経営学科、健康科学科)は低い。今後のさらなる改定が必要である。
- ・カリキュラム、生活満足とも、「ふつう」の占有率が高いため、該当層の分析が必要である。
- ・生活満足度が高いのは、課外活動(部活、サークル等)が充実しているためと考えられる。

4. 卒業生・企業調査



- ・本学卒業生に対する採用実績のある企業様(50社程度)によるアンケートコメントをもとに分析。
- ・共起ネットワークに布置された語句の中に、多数、「強み」を示すものが含まれている。
→コミュニケーション、行動力、挨拶、礼儀、印象、姿勢、身だしなみ、きちんとした、明るい、素直、元気
- ・「課題」の用例を検索すると、少数ではあるが「弱み」を示すものがあつた。
→語彙力、基礎学力

5. まとめ

- ①2019年度、学科FDを中心とした授業改善の成果が示された。特に、学修時間の伸びは顕著であり、「勉強しない日本の大学生」とは一線を画したレベルに達している。2020年度は全学共通科目(語学、実技、汎用的能力)を通して、1,2年次の改善、および、「量から質への転換」を図りたい。
- ②学内ルールの徹底、生活環境の整備が急務であるが、同時に、教職員間におけるルールの徹底、学生への改善報告が重要な課題である。
- ③カリキュラムや満足度に関しては、開設間もない学科の数値が低い。今後、学生との対話を通して、改善の歴史を残す必要がある。
- ④企業調査によると、本学の学生の非認知能力が高く評価されていることがわかる。今後はさらなる向上とともに、基礎学力の強化に努めたい。

以上